

第2回 社労士社会政策研究会を開催

～社労士の学術的知見を共有し、研究成果の対外的発信を目指す～



研究会場の様子

連合会では、昨年12月4日、第2回社労士社会政策研究会を開催しました。この研究会は、労働法制、労務管理や年金等の社会保障に関連する研究成果を発表し、広く会員間で共有することにより、企業の健全な発達と労働者等の福祉の向上に寄与するとともに、社労士の地位向上に貢献することを目的として実施したものです。

本年度研究会は、第一部においてデジタル化並びにグローバル化に伴う事業環境の変化、働き方改革による社会変化等を見据えた基調講演及び大学院修士による研究成果発表、第2部では労働と社会保障の分野に関する3つの分科会が行われました。また、村田毅之社労士総研所長より、「社労士研究助成制度」に関する説明がありました（詳細は本誌令和元年11月号24～26頁「総研レポート」参照）。

なお、研究会の詳細は、本誌令和2年2月号（第1部）、3月号（第2部）に掲載予定です。



●基調講演

「AI、IoT、RPAで働き方はどう変わる？」



●分科会

分科会③「外国人労働者の受け入れと社会保障の適用問題」

プログラム	
第1部（2月号掲載予定）	
基調講演	「AI、IoT、RPAで働き方はどう変わる？」
	山崎 憲（独立行政法人労働政策研究・研修機構 調査部 主任調査員）
研究成果発表①	介護ビジネス化の人事管理
	発表者：大西 綾子（東京会）
研究成果発表②	グローバル企業における個人データ等に対する活用と保護のあり方
	発表者：白石 斉（神奈川会）
	「社労士研究助成制度」に関する説明
	登壇者：村田 毅之（社労士総研所長）
第2部（3月号掲載予定）	
分科会①	あっせん委員と労働審判員の実状と社労士の展望（経験談に基づく考察）
	報告者：柳松 和弘（北海道会）
	進行：西林 寛昌（北海道会）
	コメンテーター：宮田 雅史（愛知会）
分科会②	同一労働同一賃金を目指した中小企業の賃金制度設計～ガソリンスタンド会社の一事例から～
	報告者：近藤 泰祐（東京会）
	進行：飯野 正明（東京会）
	コメンテーター：遠藤 公嗣（明治大学大学院経営学研究所 教授）
分科会③	外国人労働者の受け入れと社会保障の適用問題
	報告者：小林 幸雄（東京会）、大野 正美（東京会）
	進行：深澤 理香（東京会）

大野会長挨拶

本日は、大勢の会員の皆様にお集まりいただきありがとうございます。この研究会は、大西前会長のご尽力により、社労士の専門性を高めるための研究の場として発足し、今回が第2回目の開催となります。連合会では、デジタル化による事業環境の大きな変化やデジタル政府の動きに対応するべく様々な活動を進めています。また、働き方改革についても、引き続き中小企業に向けて、その実現を支援する活動を進めています。さらには、社労士の将来を見据え、社労士の使命という原点に帰って、様々な角度から検討を開始しようとしています。基調講演では、まさに今の時代、顧問先の方々と向き合うために必要なテーマをお話いただきます。このような研究活動を通じ、これからの社労士の姿、社会への貢献に向けての研究に、皆様とともに取り組んでいくことができればと考えております。